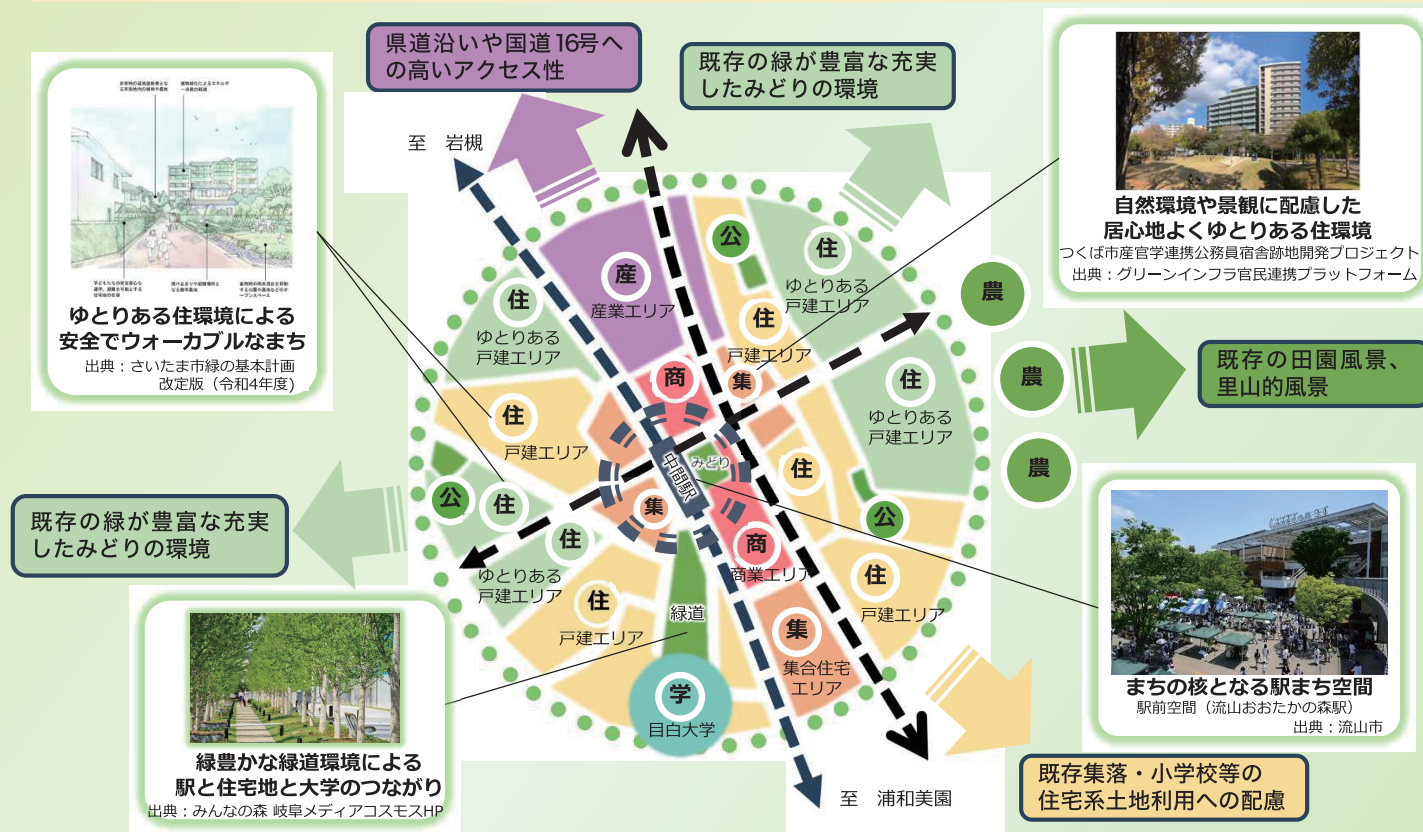


中間駅周辺まちづくりの取組状況

現時点では主にコンセプトやイメージが一般論に留まり抽象的なものとなっているという有識者会議の意見を受け、独自性を有した当該地域のポテンシャルや特徴を踏まえたまちづくりの方向性やコンセプトを定めた上で、具体的な内容の検討に入っている。

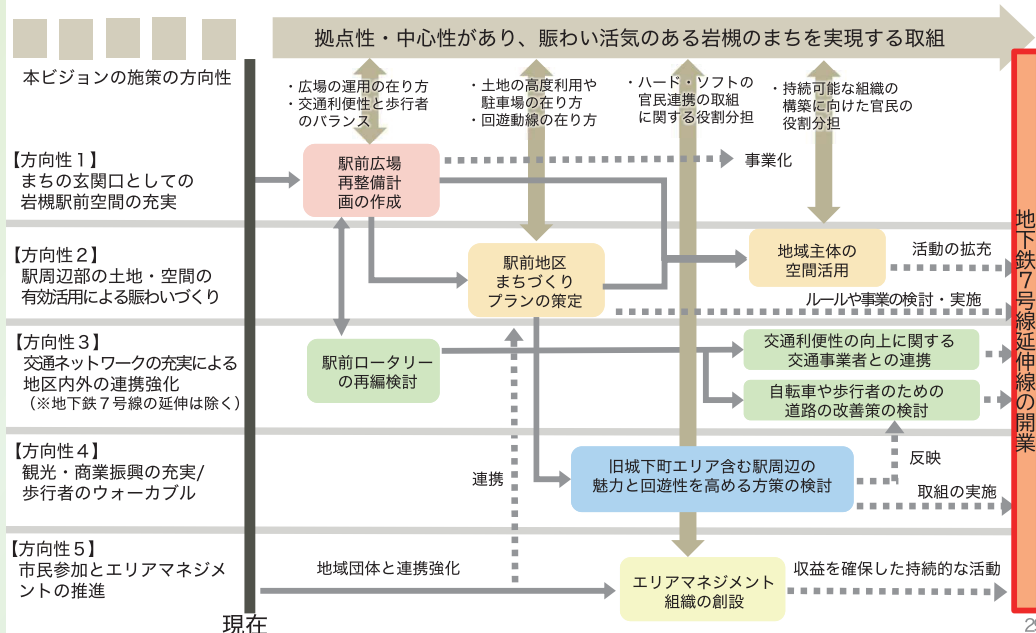
ゾーニング・土地利用

土地利用配置方針と基盤整備イメージを基本として、ウォーカブルで緑豊かな環境として整備する、対象エリア内に都市機能が集約する駅まで徒歩10分程度（半径約800m）の範囲。
また、周辺の住宅エリアでは、地区外の農業エリアとの連携により里山の風景が広がる環境を創出し、新たな田園都市的まちづくりを形成。



岩槻駅周辺まちのあり方ビジョン検討状況

- さいたま市は、本ビジョンに位置付けた施策の方向性を基に、具体の取組を検討し、必要に応じ、浦和美園～岩槻地域成長・発展プラン等に位置付けていく。
- 地元商業者や地元組織が主体となった取組と、相互補完・相乗効果の視点から連携しつつ、地下鉄7号線の延伸及び駅前広場の再整備、駅前地区、さらのその周辺へと取組の対象を広げていく。



第3回の検討有識者会議では、まちの玄関口として岩槻駅前空間の充実についての議論が行われ、その中でも「市や行政が作るのではなく、市民と共につくる施策」サインや地下空間の充実や工夫を考慮した他に類を見ない特徴的でアピールできるまちづくりを目指す、などの意見交換がなされた。

万彩雛



9月定例会最終日、議場には大阪・関西万博出展記念の岩槻の雛人形が飾られました！

